

## 現代仮名遣い

### 前 書 き

- 1 この仮名遣いは、語を現代語の音韻に従って書き表すことを原則とし、一方、表記の慣習を尊重して一定の特例を設けるものである。
- 2 この仮名遣いは、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころを示すものである。
- 3 この仮名遣いは、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。
- 4 この仮名遣いは、主として現代文のうち口語体のものに適用する。原文の仮名遣いによる必要のあるもの、固有名詞などでこれによりがたいものは除く。
- 5 この仮名遣いは、擬声・擬態的描写や嘆声、特殊な方言音、外来語・外来音などの書き表し方を対象とするものではない。
- 6 この仮名遣いは、「ホオ・ホホ（頬）」「テキカク・テツカク（的確）」のような発音にゆれのある語について、その発音をどちらかに決めようとするものではない。
- 7 この仮名遣いは、点字、ローマ字などを用いて国語を書き表す場合のきまりとは必ずしも対応するものではない。
- 8 歴史的仮名遣いは、明治以降、「現代かなづかい」（昭和21年内閣告示第33号）の行われる以前には、社会一般の基準として行われていたものであり、今日においても、歴史的仮名遣いで書かれた文献などを読む機会が多い。歴史的仮名遣いが、我が国の歴史や文化に深いかかわりをもつものとして、尊重されるべきことは言うまでもない。また、この仮名遣いにも歴史的仮名遣いを受け継いでいるところがあり、この仮名遣いの理解を深める上で、歴史的仮名遣いを知ることは有用である。付表において、この仮名遣いと歴史的仮名遣いとの対照を示すのはそのためである。

# 本 文

## 凡 例

- 1 原則に基づくきまりを第1に示し、表記の慣習による特例を第2に示した。
- 2 例は、おおむね平仮名書きとし、適宜、括弧内に漢字を示した。常用漢字表に掲げられていない漢字及び音訓には、それぞれ\*印及び△印をつけた。

第1 語を書き表すのに、現代語の音韻に従って、次の仮名を用いる。  
ただし、下線を施した仮名は、第2に示す場合にだけ用いるものである。

### 1 直音

あ	い	う	え	お					
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	で	ど
な	に	ぬ	ね	の					
は	ひ	ふ	へ	ほ	ぼ	び	ぶ	べ	ぼ
					ぽ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
ま	み	む	め	も					
や		ゆ		よ					
ら	り	る	れ	ろ					
わ				を					

例 あさひ(朝日) きく(菊) さくら(桜) ついやす(費) にわ(庭)  
ふで(筆) もみじ(紅葉) ゆずる(譲) れきし(歴史) わかば(若葉)  
えきか(液化) せいがくか(声楽家) さんぽ(散歩)

### 2 拗音<sup>よう</sup>

きや	きゆ	きよ	ぎや	ぎゆ	ぎよ
しや	しゆ	しよ	じや	じゆ	じよ
ちや	ちゆ	ちよ	ぢや	ぢゆ	ぢよ
にや	にゆ	によ			
ひや	ひゆ	ひよ	びや	びゆ	びよ
			ぴや	ぴゆ	ぴよ
みや	みゆ	みよ			
りや	りゆ	りよ			

例 しゃかい（社会） しゆくじ（祝辞） かいじょ（解除） りやくが（略画）

[注意] 拗音に用いる「や、ゆ、よ」は、なるべく小書きにする。

### 3 はっ 撥音

ん

例 まなんで（学） みなさん しんねん（新年） しゅんぶん（春分）

### 4 促音

っ

例 はしって（走） かつき（活気） がっこう（学校） せっけん（石鹼<sup>\*</sup>）

[注意] 促音に用いる「っ」は、なるべく小書きにする。

### 5 長音

#### (1) ア列の長音

ア列の仮名に「あ」を添える。

例 おかあさん おばあさん

#### (2) イ列の長音

イ列の仮名に「い」を添える。

例 にいさん おじいさん

#### (3) ウ列の長音

ウ列の仮名に「う」を添える。

例 おさむうございます（寒） くうき（空気） ふうふ（夫婦）

うれしゅう存じます きゅうり ぼくじゅう（墨汁） ちゅうもん（注文）

#### (4) エ列の長音

エ列の仮名に「え」を添える。

例 ねえさん ええ（応答の語）

#### (5) オ列の長音

オ列の仮名に「う」を添える。

例 おとうさん とうだい（灯台）

わこうど（若人） おうむ

かおう（買） あそぼう（遊） おはよう（早）

おうぎ（扇） ほうる（放） とう（塔）

よいでしょう はっぴょう（発表）

きょう（今日） ちょうちょう（蝶々<sup>\*</sup>）

第2 特定の語については、表記の慣習を尊重して、次のように書く。

1 助詞の「を」は、「を」と書く。

例 本を読む 岩をも通す 失礼をばいたしました  
やむをえない いわんや…をや よせばよいものを  
てにをは

2 助詞の「は」は、「は」と書く。

例 今日は日曜です 山では雪が降りました  
あるいは または もしくは  
いずれは さては ついては ではさようなら とはいえ  
惜しむらくは 恐らくは 願わくは  
これはこれは こんにちは こんばんは  
悪天候もものかは

[注意] 次のようなものは、この例にあたらぬものとする。

いまわの際 すわ一大事  
雨も降るわ風も吹くわ 来るわ来るわ きれいだわ

3 助詞の「へ」は、「へ」と書く。

例 故郷へ帰る …さんへ 母への便り 駅へは数分

4 動詞の「いう（言）」は、「いう」と書く。

例 ものをいう（言） いうまでもない 昔々あったという  
どういうふうにも 人というもの こういふわけ

5 次のような語は、「ぢ」「づ」を用いて書く。

(1) 同音の連呼によって生じた「ぢ」「づ」

例 ちぢみ（縮） ちぢむ ちぢれる ちぢこまる  
つづみ（鼓） つづら つづく（続） つづめる（約） つづる（綴）

[注意] 「いちじく」「いちじるしい」は、この例にあたらぬ。

(2) 二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」

例 はなぢ（鼻血） そえぢ（添乳） もらいぢち そこぢから（底力） ひぢりめん  
いれぢえ（入知恵） ちゃのみぢやわん  
まぢか（間近） こぢんまり

ちかぢか（近々） ちりぢり  
 みかづき（三日月） たけづつ（竹筒） たづな（手綱） ともづな にいづま（新妻）  
 けづめ ひづめ ひげづら  
 おこづかい（小遣） あいそづかし わしづかみ こころづくし（心尽）  
 てづくり（手作） こづつみ（小包） ことづて はこづめ（箱詰） はたらきづめ  
 みちづれ（道連）  
 かたづく こづく（小突） どくづく もとづく うらづける ゆきづまる  
 ねばりづよい  
 つねづね（常々） つくづく つれづれ

なお、次のような語については、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則とし、「せかいぢゅう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用いて書くこともできるものとする。

例 せかいじゅう（世界中）

いなづま（稲妻） かたず（固唾） きずな（絆） さかづき（杯） ときわず  
 ほおずき みみずく  
 うなずく おとずれる（訪） かしづく つまづく ぬかずく ひぎますく  
 あせみずく くんずほぐれつ さしずめ ですっぱり なかんずく  
 うでずく くるずくめ ひとりずつ  
 ゆうずう（融通）

[注意] 次のような語の中の「じ」「ず」は、漢字の音読みでもともと濁っているものであって、上記（1）、（2）のいずれにもあたらず、「じ」「ず」を用いて書く。

例 じめん（地面） ぬのじ（布地）  
 ずが（図画） りやくず（略図）

6 次のような語は、オ列の仮名に「お」を添えて書く。

例 おおかみ おおせ（仰） おおやけ（公） こおり（氷・郡） こおろぎ  
 ほお（頬・朴） ほおずき ほのお（炎） とお（十）  
 いきどおる（憤） おおう（覆） こおる（凍） しおおせる とおる（通）  
 とどこおる（滞） もよおす（催）  
 いとおいしい おおい（多） おおきい（大） とおい（遠）  
 おおむね おおよそ

これらは、歴史的仮名遣いでオ列の仮名に「ほ」又は「を」が続くものであって、オ列の長音として発音されるか、オ・オ、コ・オのように発音されるかにかかわらず、オ列の仮名に「お」を添えて書くものである。

付 記

次のような語は，エ列の長音として発音されるか，エイ，ケイなどのように発音されるかにかかわらず，エ列の仮名に「い」を添えて書く

例 かれい せい（背）

かせいで（稼） まねいて（招） 春めいて

へい（塀） めい（銘） れい（例）

えいが（映画） とけい（時計） ていねい（丁寧）

## 付 表

### 凡 例

- 1 現代語の音韻を目印として、この仮名遣いと歴史的仮名遣いととの主要な仮名の使い方を対照させ、例を示した。
- 2 音韻を表すには、片仮名及び長音符号「ー」を用いた。
- 3 例は、おおむね漢字書きとし、仮名の部分は歴史的仮名遣いによった。常用漢字表に掲げられていない漢字及び音訓には、それぞれ\*印及び△印をつけ、括弧内に仮名を示した。
- 4 ジの音韻の項には、便宜、拗音の例を併せ挙げた。

現代語の音韻	この仮名遣いで用いる仮名	歴史的仮名遣いで用いる仮名	例
イ	い	い ゐ ひ	石 報いる 赤い 意図 愛 井戸 居る 参る 胃 権威 貝 合図 費やす 思ひ出 恋しさ
ウ	う	う ふ	歌 馬 浮かぶ 雷雨 機運 買ふ 吸ふ 争ふ 危ふい
エ	え	え ゑ へ	柄 枝 心得 見える 荣誉 声 植ゑる 絵 円 知恵 家 前 考へる 帰る 救へ
	へ	へ	西へ進む
オ	お	お を ほ ふ	奥 大人 起きる お話 雑音 男 十日 踊る 青い 悪寒 顔 氷 滞る 直す 大きい 仰ぐ 倒れる
	を	を	花を見る
カ	か	か くわ	蚊 紙 静か 家庭 休暇 火事 歓迎 結果 生活 愉快
ガ	が	が ぐわ	石垣 学問 岩石 生涯 発芽 画家 外国 丸薬 正月 念願
ジ	じ	じ ぢ	初め こじあける 字 自慢 術語 味 恥ぢる 地面 女性 正直
	ぢ	ぢ	縮む 鼻血 底力 近々 入れ知恵
ズ	ず	ず	鈴 物好き 知らずに 人数 洪水

		づ	水 珍しい 一つづつ 図画 大豆
	づ	づ	鼓 続く 三日月 塩漬け 常々
ワ	わ	わ	輪 泡 声色 弱い 和紙
	は	は	川 回る 思はず 柔らか 琵琶 <sup>**</sup> (びは)
	は	は	我は海の子 又は
ユー	ゆう	ゆう	勇気 英雄 金融
		ゆう	夕方
		いう	遊戯 郵便 勧誘 所有
		いふ	都邑 <sup>*</sup> (といふ)
	いう	いふ	言ふ
オー	おう	おう	負うて 応答 欧米
		あう	桜花 奥義 中央
		あふ	扇 押収 凹凸
		わう	弱う 王子 往来 卵黄
		はう	買はう 舞はう 怖うございます
コー	こう	こう	功績 拘束 公平 気候 振興
		こふ	劫 <sup>*</sup> (こふ)
		かう	咲かう 赤う かうして 講義 健康
		かふ	甲乙 太閤 <sup>*</sup> (たいかふ)
		くわう	光線 広大 恐慌 破天荒
ゴー	ごう	ごう	皇后
		ごふ	業 永劫 <sup>*</sup> (えいごふ)
		がう	急がう 長う 強引 豪傑 番号
		がふ	合同
		ぐわう	轟音 <sup>*</sup> (ぐわうおん)
ソー	そう	そう	僧 総員 競争 吹奏 放送
		さう	話さう 浅う さうして 草案 体操
		さふ	挿話
ゾー	ぞう	ぞう	増加 憎悪 贈与
		ざう	象 蔵書 製造 内臓 仏像
		ざふ	雑煮
トー	とう	とう	弟 統一 冬至 暴投 北東
		たう	峠 勝たう 痛う 刀剣 砂糖



		たふ	塔 答弁 出納
ドー	どう	どう だう だふ	どうして 銅 童話 運動 空洞 堂 道路 葡萄 <sup>**</sup> (ぶだう) 問答
ノー	のう	のう のふ なう なふ	能 農家 濃紺 昨日 死なう 危なうございます 脳 苦惱 納入
ホー	ほう	ほう ほふ はう はふ	奉祝 俸給 豊年 霊峰 法会 葬る 包囲 芳香 解放 はふり投げる はふはふの体 法律
ポー	ぼう	ぼう ぼふ ばう ばふ	某 貿易 解剖 無謀 正法 遊ぼう 飛ばう 紡績 希望 堤防 貧乏
ポー	ぽう	ぽう ぽふ ぱう ぱふ	本俸 連峰 説法 鉄砲 奔放 立方 立法
モー	もう	もう まう	もう一つ 啓蒙 <sup>*</sup> (けいもう) 申す 休まう 甘う 猛獣 本望
ヨー	よう	よう やう えう えふ	見よう ようございます 用 容易 中庸 八日 早う 様子 洋々 太陽 幼年 要領 童謡 日曜 紅葉
ロー	ろう	ろう ろふ らう らふ	楼 漏電 披露 かげろふ ふくろふ 祈らう 暗う 廊下 労働 明朗 候文 蠟燭 <sup>**</sup> (らふそく)
キュー	きゅう	きゅう きう きふ	弓術 宮殿 貧窮 休養 丘陵 永久 要求 及第 急務 給与 階級

ギュー	ぎゅう	ぎう	牛乳
シュー	しゅう	しゅう しう しふ	宗教 衆知 終了 よろしう 周囲 収入 晩秋 執着 習得 襲名 全集
ジュー	じゅう	じゅう じう じふ ぢゅう	充実 従順 臨終 猟銃 柔軟 野獣 十月 渋滞 墨汁 住居 重役 世界中
チュー	ちゅう	ちゅう ちう	中学 衷心 注文 昆虫 抽出 鑄造 宇宙 白昼
ニュー	にゅう	にゅう にう にふ	乳酸 柔和 * <sup>△</sup> 埴生 (はにふ) 入学
ヒュー	ひゅう	ひう	<sup>△</sup> <sup>△</sup> 日向 (ひうが)
ビュー	びゅう	びう	誤謬* (ごびう)
リュー	りゅう	りゅう りう りふ	竜 隆盛 留意 流行 川柳 粒子 建立
キョー	きょう	きょう きやう けう けふ	共通 恐怖 興味 吉凶 兄弟 鏡台 経文 故郷 熱狂 教育 矯正 絶叫 鉄橋 今日 脅威 協会 海峡
ギョー	ぎょう	ぎょう ぎやう げう げふ	凝集 仰天 修行 人形 今暁 業務
ショー	しょう	しょう しやう せう せふ	昇格 承諾 勝利 自称 訴訟 詳細 正直 商売 負傷 文章 見ませう 小説 消息 少年 微笑 交渉
ジョー	じょう	じょう じやう ぜう	冗談 乗馬 過剰 成就 上手 状態 感情 古城 * <sup>△</sup> 饒舌 (ぜうぜつ)

		ぢやう でう でふ	定石 丈夫 市場 令嬢 箇条 一帖 <sup>*</sup> (いちでふ) 六畳
	ぢよう	ぢやう でう	盆提灯 <sup>△△</sup> (ぼんぢやうちん) 一本調子
チヨ一	ちよう	ちよう ちやう てう てふ	徴収 清澄 尊重 腸 町会 聴取 長短 手帳 調子 朝食 弔電 前兆 野鳥 蝶 <sup>*</sup> (てふ)
ニヨ一	によう	によう ねう	女房 尿
ヒヨ一	ひよう	ひよう ひやう へう	氷山 拍子 評判 兵糧 表裏 土俵 投票
ビヨ一	びよう	びやう べう	病氣 平等 秒読み 描写
ピヨ一	ぴよう	ぴよう ぴやう ぺう	結氷 信憑性 <sup>*</sup> (しんぴようせい) 論評 一票 本表
ミヨ一	みよう	みやう めう	名代 明日 寿命 妙技
リヨ一	りよう	りよう りやう れう れふ	丘陵 領土 両方 善良 納涼 分量 寮 料理 官僚 終了 漁 獵